文部科学省　平成22年度　先導的大学改革推進委託事業

第２回
「教員養成に関するモデルカリキュラムの作成に関する調査研究」
シンポジウム資料

目　　次

■ 報告①
鳴門教育大学　自然系コース（理科）
教　授　佐藤　勝幸

■ 報告②
鳴門教育大学　授業実践･カリキュラム開発コース
教　授　小野瀬　雅人

報告①

鳴門教育大学　自然系コース（理科）
教授　佐藤　勝幸

鳴門教育大学

先導的大学改革推進委託事業
「教員養成に関するモデルカリキュラムの作成に関する調査研究」
第2回シンポジウム

適格判定基準となるカリキュラムマップについて

報告者：鳴門教育大学
佐藤勝幸

鳴門教育大学

沿　革（その1）

H21.7.9　第11回研究開発検討部会
　　事業の実施要項及び実施計画書等の申請
H21.7.31　平成21年度「先導的大学改革推進委託事業」
　　（第二次公募）　採択
H21.8.24　文部科学省と事業に係る事前打合せ
H21.9.1　第13回研究開発検討部会
　　実施体制・評価体制の確認
　　モデルコア・カリキュラム調査研究委員会の設置決定
H21.10.16　第1回モデルコア・カリキュラム調査研究委員会
H21.11.25　全学説明会にて本事業の取組みについて説明

鳴門教育大学

沿　革（その2）

H21.11.26　第3回モデルコア・カリキュラム調査研究委員会
　　モデルコア・カリキュラム開発チームメンバー
　　カリキュラムマップに係るアンケート調査
H21.12.15　カリキュラムマップに係るアンケート調査実施
H22.1.12　文部科学省との事業に係る打合せ
H22.2.21　本事業に係る第1回研究協議会
　　提案発表　岩田康之先生（東京学芸大）
　　廣瀬政雄先生（鳴門教育大）
　　事例発表　岩部浩三先生（山口大）
　　中井隆司先生（奈良教育大）
　　三浦浩喜先生（福島大）

鳴門教育大学

沿　革（その3）

H22.3.2　本事業に係る第2回研究協議会
　　提案発表　梅津正美先生（鳴門教育大）
　　事例発表　長澤憲保先生（兵庫教育大）
　　金馬国晴先生（横浜国立大）
　　加藤寿朗先生（島根大）
　　橋本孝之先生（大阪教育大）
　　小島律子先生（大阪教育大）
　　増井三夫先生（上越教育大）

H22.3.16　本事業に係る第3回研究協議会（本学教員のみ）

鳴門教育大学

沿　革（その4）

H22.3.28　本事業に係る第1回シンポジウム（大阪市：梅田スカイビル）
　　パネリスト　増井　三夫先生（上越教育大）
　　遠藤　孝夫先生（岩手大）
　　船寄　俊雄先生（神戸大）
H22.5　平成22年度事業計画の確定
H22.7.6　カリキュラムマップ作成の試行
　　対象：モデルコア・カリキュラム開発チームメンバー
H22.8.4　本事業に係る第4回研究協議会（本学教員のみ）
H22.8.11　本学全教員に対象に授業科目におけるカリキュラムマップ 作成依頼
H22.9.23　本事業に係る第2回シンポジウム（鳴門教育大学）

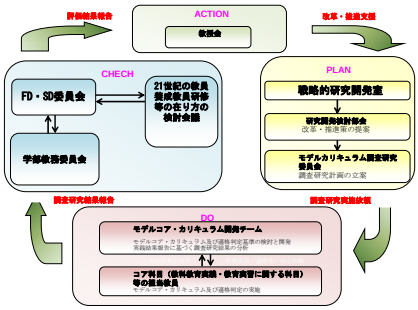
鳴門教育大学

沿　革（その5）

事業概要：モデルコア・カリキュラム及びその適格判定基準の作成と適格判定の試験的実施

達成のための調査内容
- ○カリキュラムマップの作成　（教員養成のためのカリキュラムの構造化）
- ○他学部の大学における質保証の取組みに関する調査
- ○国内外の教員養成カリキュラムや質保証、及びFD,SDの実態調査
- ○本学卒業生対象のアンケート調査
- ○学生対象のカリキュラムマップのアンケート調査
- ○モデルコア・カリキュラムの作成
- ○適格判定基準の作成及び一部試行
- ○有識者によるシンポジウムの開催

本事業の実施体制・評価体制



本事業開始までの準備状況（1）

○本学のコア・カリキュラムは「教育職員養成審議会（第3次）」（平成11年12月）と「国立の教員養成系大学・学部の在り方に関する懇談会」（平成13年11月）の指摘や文部科学省初等中等教育局教育課程課長の竹下典行氏の助言を踏まえ開発し、平成17年度から実践している。

○教育実践力とは、学校教育の指導内容の範囲や発展性を理解し、子どもの発達段階に則して単元を構成したり学習として展開したりできる能力であり、それは、教科内容学、教科教育学、教育科学の科学知と教育実践の実践知を統合したものととらえる。

本事業開始までの準備状況（2）

○教育実践力を育成する授業をカリキュラムのコアである「教育実践学」の部分において、実践的な体験としての「教育実習」と、それと関連させながら実践を省察的にとらえる「教科教育実践」により具現化している。教科教育実践を中心に教養、教育科学、教科教育学、教科専門を関連させ、カリキュラム全体を構成している。

○平成18年から「特色ある大学教育支援プログラム」において，「教育実践力」の1つである授業実践力を評価するための指標となる授業実践力評価スタンダードを開発し，教科教育実践の第2コア科目である「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で試行している。

コア・カリキュラムの概要

カリキュラムマップの取組み（1）

○国立大学の教員養成のためのモデルカリキュラムとして，本学で既に実施しているコア・カリキュラムを基に作成する。したがって，モデルコア・カリキュラムの作成という名称を使用する。

○平成22年度より導入される「教職実践演習」を含めて、本学のコア・カリキュラムを再考し、モデル・コアカリキュラムの作成を行う。この再考において，カリキュラムマップを使用する。

カリキュラムマップの取組み（2）

○カリキュラムマップは、各授業科目を教員としての資質を観点に見直すためのものばかりでなく、学生が修学する上でのガイドマップという働きをも持つものである。教員としての資質・能力としては、「教職実践演習」での4つの観点である「使命感や責任感、教育的愛情に関する事項」、「社会性や対人関係能力に関する事項」、「幼児児童生徒理解や学級経営に関する事項」、「教科・保育内容等の指導力に関する事項」を設定した。

○各観点を3つの項目に細分し、現在行われている授業科目がどれの項目に強く関連しているかを担当教員に対してアンケート調査を行った。

福岡教育大学

カリキュラムマップの取組み（3）

○カリキュラムマップにおける教員としての資質・能力として以下の観点にまとめた。

教育人間力：使命感、倫理観、教育的愛情、省察力、教養
協働力：対人間関係能力、協調性（含リーダーシップ）、社会性
生徒指導力：基本的態度、個人指導力、集団指導力
授業力：教科内容の理解、構想力、展開力、評価力

○各授業科目とカリキュラムマップとの関わり

各資質・能力と強く関連している所に各授業科目における到達目標を達成基準を入れながら記述した。

福岡教育大学

カリキュラムマップの取組み（4）

○カリキュラムマップの作成状況（H22.9.3現在）

回答率

89．3%（教員数）
85．1%（授業科目数）

○各授業科目とカリキュラムマップとの関わり

各資質・能力と強く関連している所に各授業科目における到達目標を達成基準を入れながら記述した。

福岡教育大学

カリキュラムマップの取組み（5）

○カリキュラムマップが教員養成のカリキュラムにおける適格判定

基準として利用できる。→カリキュラム構成の判定

○各授業科目の達成基準を含む到達目標（セルの部分）がそれぞれの授 業の適格判定基準として利用可能である。→授業実践の判定

○学生の省察力育成のためのカリキュラムマップの活用

教員としての資質・能力に関する各授業の位置づけの把握と学びの歩みの明確化が図れる。

福岡教育大学

シンポジウムでのご議論の観点

- カリキュラムマップの有効性と汎用性
- 実践的指導力として求められる資質・能力における適正
- 実践的指導力として求められる資質・能力と各授業科目の位置づけにおける適正
- 各授業科目の到達目標と達成基準
- 教免法とモデルコア・カリキュラム
- 教職実践演習の位置づけ

福岡教育大学

ご静聴ありがとうございました。

学生の省察力育成のためのカリキュラムマップの利用例（小学校教育専修）

		授業科目 ＼ 評価項目	幼児教育専修 ①	幼児教育専修 ②	幼児教育専修 ③	幼児教育専修 ④	小学校教育専修 ①使命感や・・・	小学校教育専修 ②社会性や・・・	小学校教育専修 ③子ども理解や学級経営	小学校教育専修 ④教科や・・・
1年次	コア科目	幼児教育実践基礎演習							乳幼児の認識や発達の理解	保育内容「領域」と子どもの生活についての理解
		初等中等教育実践基礎演習								教科の特性とあるべき教師像の理解
		初等中等教科教育実践Ⅰ							幼児・児童の認知発達と教科の関わりの理解	幼児・低学年の児童に対する指導の理解
		特別支援教育実践基礎演習							障害の状況の理解	特別支援教育の基礎
		○○○○○								
	教育科学	教育論								・・・・・・・・・
		人間形成原論								・・・・・・・・・
		○○○○○								
		○○○○○								
	教科教育学	初等社会科教育論								
		保育内容（人間関係）							人との関わりと発達の関係の理解	保育に関わる人間関係の理解
		○○○○○								
		○○○○○								
	教科内容学	初等国語								・・・・・・・・・
		保育原論								・・・・・・・・・
		○○○○○								
		○○○○○								
	教育実施	ふれあい実習					教師の責任についての理解	子どもとの関わり方の理解	交流による子ども理解と課題発見	
2年次	コア科目	初等中等教科教育実践Ⅱ							児童の認知発達と教科の内容の理解	
		特別支援教育実践Ⅱ							障害の状況に応じた支援の理解	特別支援教育の基礎
		○○○○○								
	教育科学	教育心理学							児童の自己形成や社会化の理解	
		教育社会学							子どもの変容と発達ステージの理解	教育と社会との関連理解
		学校の危機管理					学校における危機と教師の役割の理解		反社会行動の理解	危機管理・対応の理解
		○○○○○								
	○○	○○○○○								
		○○○○○								
		○○○○○								
	○○	○○○○○								
		○○○○○								
		○○○○○								
	○○	○○○○○								
3年次	コア科目	初等中等教科教育実践Ⅲ							中学生の認知発達と教科の理解	
		特別支援教育実践Ⅱ							障害の状況に応じた支援の理解	特別支援教育の基礎
		○○○○○								
	教育科学	臨床心理学							臨床心理学・精神医学からの行動理解	臨床心理学・精神医学の基礎的理解
		学校の組織と集団					教師の省察力についての理解		学級経営と子ども理解	
		教科教育学習論							教科学習の基礎となる認知発達	
		乳幼児心理学							保育者に求められる乳幼児理解	
		カウンセリング論							心の発達段階に応じた対応の理解	

コア・カリキュラムの全体構造

教　科　内　容　学

学部

4年次

3年次

2年次

1年次

教　養

A:現代社会の諸問題

テーマ
1:地球の生態系
2:紛争と平和
3:現代の科学と倫理
等

B:身体運動・表現・コミュニケーション

○スポーツ健康科学
○基礎情報教育
○英語コミュニケーション
等

教　職

教育実践科学

○生徒指導論
○特別活動指導論
○道徳教育指導論
○授業研究論
○教育評価論
○教育課程論
等

教育実践原論

○人間形成原論
○発達心理学
○教育心理学
○教育制度・経営論
○教育社会学
○教職論

教育実践学（コア）

教員インターンシップ

副免実習

実習事後指導

附属校園実習

初等中等教科教育実践Ⅲ

附属直前観察実習

初等中等教科教育実践Ⅱ

初等中等教科教育実践Ⅰ

ふれあい教育実習

教育実践基礎演習

（教科教育実践）

（教育実習）

教　科

教科教育

教科専門

第1表　各専修別・授業科目区分等別の所要修得単位数一覧表

（学校教育教員養成課程）

区分			幼児教育専修	小学校教育専修	中学校教育専修（）は技術科教育コースの修得単位数	特別支援教育専修
教養基礎科目	現代社会の諸問題	日本国憲法 科学と環境ほか	6	8	8	8
	身体運動・表現コミュニケーション	健康・スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 英語リーディングⅠ・Ⅱ 英語コミュニケーションⅠ～Ⅴ 基礎情報教育 実践情報教育Ⅰ～Ⅲ	14	14	14	14
	計		20	22	22	22
教育実践コア科目	幼児教育実践基礎演習 幼児教育実践 初等中等教育実践基礎演習 学校教育実践Ⅰ・Ⅱ 初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 特別支援教育実践基礎演習 特別支援教育実践Ⅰ 特別支援教育実践Ⅱ		5	8	8	12
教職共通科目	第二欄	教職の意義等に関する科目	2	2	2	2
	第三欄	教育の基礎理論に関する科目	8	6	6	6
	第四欄	教育課程及び指導法に関する科目	36	30	24(26)	26
		生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目	6	4	4	4
	第五欄	教育実習	12	8	8	10
	第六欄	教職実践演習	2	2	2	2
	計		66	52	46(48)	50
専修専門科目	教職の専門科目		0	4	4	
	教科の専門科目		8	28	34	10
	乳幼児教育科目		26			
	特別支援教育科目					28
	計		34	32	38	38
卒業研究			4	4	4	4
自由選択科目			0	10	10(8)	2
合計			129	128	128	128

（注1）　自由選択科目は，教養基礎科目，教育実践コア科目，教職共通科目及び専修専門科目の授業科目の中から自由に選択することができます。（所属する専修等以外の授業科目でも可）ただし，「必修・選択等の区分」の「自由」科目は卒業要件には含まれません。

（注2）　中学校教育専修技術科教育コースの学生については，教職共通科目第四欄の教育課程及び指導法に関する科目を26単位以上修得し，自由選択科目を8単位以上修得しなければなりません。

開講科目のカリキュラムマップ（ダイジェスト版）

区分	科目名		学年	開講学期	主担当教員	主担当教員所属	必修・選択・自由 幼児教育専修	小学校教育専修	中学校教育専修	特別支援専攻	教育人間力 使命感	倫理観	教育的愛情	省察力	教養	協働力 対人関係能力	協調性	社会性	生涯探求力 基本的態度	個人指導力	集団指導力	授業力 教科内容の理解		構築力				展開力				評価力
											教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、共に成長しようとする意識をもって、指導にあたることができる。	高い倫理観と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職務を果たすことができる。	子どもの成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができる。	教育だけでなく、様々な分野や事象に対して広く関心を持ち、自らの力量向上に努め、変化する学校現場の状況の中で、自己の教育実践を絶えず反省・評価し、改善していくことができる。	社会人として生涯にわたって基盤となる幅広い教養とスキルを身につける。	教員としての職責や義務の自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な言動をとることができる。	組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務をリーダーシップを発揮しながら遂行することができる。	保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができる。	子どもに対して公平かつ受容的な態度で接し、豊かな人間的交流を行うことができる。	子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる。	子どもとの間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級経営を行うことができる。	教科等の背景にある専門諸科学・芸術に関する豊かな知識と探究方法を理解し、教科内容という観点からその知識や方法を解釈し授業づくりに活かすことができる。	教科等の背景にある専門諸科学・芸術の知識と探究方法の理解	教科内容という観点からの専門科学・芸術の知識・方法の解釈	教科書や学習指導要領の内容の理解を基盤にして、適切な教育目標を設定し、それを達成する授業を構想することができる。	子どもの学習における実態の理解・把握	子どもの授業目標の分類と設定	授業構成(教育内容の構成/教材の選択・構成/授業過程の組織/学習法・学習形態の選択・構成)	単元計画(単元(授業)計画の作成/学習指導案の作成/学習評価計画の作成)	話し方、書き方、表情など基本的な表現力を基盤にして、様々な教育技術を駆使して、教育目標を達成する教授・学習活動を展開することができる。	基礎的・基本的な授業態度(音声・表情・所作等	教授活動の構成と展開(個や集団への配慮/説明/助言・指示/板書/教材・教具の活用/演技・表現性)	学習活動の喚起と促進(授業の流れや分節化への考慮・発問/子どもの発言・行為への対応/学習環境の構成とマネジメント/学習活動への即時的対応)	学習活動に対する評価(形成的評価/机間巡視/学習評価法の工夫)	子どもの反応や学習の定着状況を考慮又は想定して、省察的に授業計画や学習形態等を検討し改善できる。
教養基礎科目	開発と環境		学部1・2・3年	前期	西村　宏	現代教育課題総合コース	必修※	必修※	必修※	必修※					①環境と開発、とくに環境保全との間にある二律背反的なジレンマについて認識できる。 ②開発と環境に関する意思決定のあり方を理解できる。																		
	人口と食糧問題		学部1・2・3年	後期	前田　英雄	生活・健康系コース（家庭）	必修※	必修※	必修※	必修※					グローバルな視点から人口増加と食糧不足という現実的的課題に向き合い、問題を解決する力を身につける																	
	人権確立の歴史		学部1・2・3年	前期	葛上　秀文	教員養成特別コース	必修※	必修※	必修※	必修※					人権に関する様々な問題の歴史的経緯を学際的に考察し、自分の考えて論述することができる。																	
	東洋の文化研究		学部1・2・3年	後期	小川　勝	芸術系コース（美術）	必修※	必修※	必修※	必修※					伝統的に日本人が陶冶してきた、東洋の文化を継承する態度を涵養する。							地域の歴史を知るため、主に近代の日本、朝鮮半島、中国大陸の文学、音楽、美術についての具体的な作例を検討します。											
	基礎情報教育		学部1年	前期	林　秀彦	生活・健康系コース（技・工・情）	必修	必修	必修	必修					情報分野についてのプロジェクトを展開し、情報活用能力の基礎を身につける。																	
	実践情報教育Ⅰ		学部2年	前期	林　秀彦	生活・健康系コース（技・工・情）	必修※	必修※	必修※	必修※					情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、情報活用の実践力を身につける。																	
	英語コミュニケーションⅠ		学部1年	前期	ﾌﾞﾗｯﾄﾞﾘｰ・ﾊﾞｰﾏﾝ	言語系コース（英語）	必修	必修	必修	必修					英語コミュニケーションに関する自信や能力を獲得し、英語話者と対話し、幅広く考えることができる。		グループワークを通して、リーダーシップや問題解決のスキルを身につける。																
	英語コミュニケーションⅡ		学部1年	後期	鎌田ースザーン	言語系コース（英語）	必修	必修	必修	必修					寛容な精神を養うことを目的に、英語で幅広い見方や考え方を表現し交渉することができる。		グループワークを通して、リーダーシップや問題解決のスキルを身につける。															

開講科目のカリキュラムマップ（ダイジェスト版）

英語コミュニケーションⅢ		学部2年	前期	ｱｰﾚﾝ ﾆﾑﾁｬｯｸ	言語系コース（英語）	必修※	必修※	必修※	必修※					現代の世界問題（政治等）に焦点をあて、英語を通して批判的に分析・思考することができる。		グループワークを通して、リーダーシップや問題解決のスキルを身につける。															
英語コミュニケーションⅣ		学部2年	後期	ｼﾞｪﾗｰﾄﾞ ﾏｰｼｪｿﾞ	言語系コース（英語）	必修	必修※	必修※	必修※					日本国内の地域的な問題や、世界的な問題について英語を通して分析・思考することができる。		グループワークを通して、リーダーシップや問題解決のスキルを身につける。															
英語リーディングⅡ		学部1年	後期	杉浦　裕子	言語系コース（英語）	必修	必修	必修	必修					リーディングを中心に、TOEIC550点を狙える英語基礎力を、身につける。						TOEIC対策やネットアカデミーを利用しながら、英語力を向上させる勉強法を身につける。											
英語リーディングⅢ		学部3・4年	前期	杉浦　裕子	言語系コース（英語）	選択	選択	選択	選択					テキストや記事のリーディングを通して、書かれている文章の背景を理解し、自分の意見を考える。							英文の内容を理解し、使える英語表現を身につける。トピックに関して英語で話し合う。										
初等中等教育実践基礎演習	（英語）	学部1年	前期	前田　一平	言語系コース（英語）	―	必修	必修	―												英語科の成立と特性について学ぶ。英語教育の専門性を総合的に説明できるべく学習する。		大学生活における自分自身の学習姿勢と方法を確立する。英語教員について具体像をもつ。								
初等中等教育実践基礎演習	（社会）	学部1年	前期	井上　奈穂	社会系コース	―	必修	必修	―				教職・子ども・社会についての探究と理解にむけての構えを持つことができるようにする。							人文・社会諸科学全般に関する基礎的な研究方法論を理解する。	人文・社会諸科学全般に関する基礎的な知識を理解し、レポートにまとめる。	授業の受け手から作り手への意識の転換を図るためのプレゼンテーションの場を設定し、実施する。									
初等中等教育実践基礎演習	（算数・数学）	学部1年	前期	佐伯　昭彦	自然系コース（数学）	―	必修	必修	―											学問としての数学の探究方法を理解する。	初歩的な数学を通して、正しい数学観の重要性や数学教育の意義を理解する。										
初等中等教科教育実践Ⅰ	（英語）	学部1年	後期	伊東　治己	言語系コース（英語）	必修	必修	必修	必修											早期英語教育（小学校英語教育）の歴史的・理論的背景を理解する。			学習指導要領に示された目標や指導内容を多角的に検討すると同時に、最近の理論的動向と学校英語教育（特に小学校英語）の課題を把握する。	外国語学習者としての小学生の特性を理解し、授業構成の基本的原理を理解する。	小学校英語の基本的特徴を理解した上で、グループ単位で模擬授業を構想する。	①小学校英語の基本的特徴を理解した上で、グループ単位でマイクロティーチングを行う。②その後、そのマイクロティーチングに関して、それぞれの活動についての基本原理に照らして良かった点や改善点についてグループ討議を行う。③グループ討議の結果をクラス全体で共有し、よりよい授業方法について理解を深める。					
初等中等教科教育実践Ⅰ	（社会）	学部1年	後期	伊藤　直之	社会系コース	必修	必修	必修	必修				初等中等地理学習について、自己の教育実践を反省・評価し、改善していくことができる。								地域における地理的・経済的事象の特質を理解し、レポートにまとめる。	児童生徒との学習を展開するときの必要な構えやルールについて受講生同士で話し合い、記述する。	受講生3、4名のグループで、地理的・経済的事象を取り上げた小学校の地域学習を構想し、学習指導案を書く。					〇いくつかの授業論を取り上げたうえで、そのいずれかに基づく地理授業についての細案を作成する。〇グループから実践者が立ち、マイクロティーチング（20分）を実施する。		合評会を組織し、実践された授業を検討・評価して改善点を具体的に指摘する
初等中等教科教育実践Ⅰ	（算数・数学）	学部1年	後期	齋藤　昇	自然系コース（数学）	必修	必修	必修	必修												小学校低学年の算数について数学的背景、学問的位置づけ、発展性を理解する。	低学年の児童の発達段階と学習指導要領の目標・内容の関わりを理解する。	低学年の算数について学習指導要領の目標・内容を理解する。	低学年の算数について教育目標を達成できる指導方法・授業構成を理解する。	低学年の算数について教育目標を達成できる単元計画を理解する。	低学年の算数について発達段階に沿った、指導・学習方法を理解し、指導計画作成・マイクロティーチングを通して実践的な指導力を身に付ける。					

開講科目のカリキュラムマップ（ダイジェスト版）

教育実践コア科目	初等中等教科教育実践Ⅰ	（理科）	学部1年	後期	香西　武	自然系コース（理科）	必修	必修	必修	必修												小学校の理科学習内容について、その背景にある学問的基礎の理解をはかる		指導学年に応じた発達的特性を把握する		実験・観察、野外学習等の学習場面に応じた授業構成と学習形態を工夫する。	実験・観察、野外学習等の学習を取り入れた単元構成について考える。	学習者を意識した授業態度について理解する。				
	初等中等教科教育実践Ⅱ	（社会）	学部2年	後期	梅津　正美	社会系コース	選択	必修	必修	必修				初等中等歴史学習について、自己の教育実践を反省・評価し、改善していくことができる。									日本近世の時代や社会の特質を説明した解釈を理解し、小中学校歴史学習の知識目標として再構成し記述する	児童生徒との学習を展開するときの必要な構えやルールについて受講生同士で話し合い、記述する。	受講生3、4人のグループで日本近世（江戸期）から主題をとった小・中学校の歴史授業を構想し、学習指導案を書く。			〇各グループで、①導入の工夫、②教材・教具の活用、③板書の構成、④形成的評価の実施、というテーマのうちの1つを引き受け、構想した歴史授業についての細案を作成する。〇グループから実践者が立ち、マイクロティーチング（20分）を実施する。				合評会を組織し、実践された授業を検討・評価して改善点を具体的に指摘する
	初等中等教科教育実践Ⅱ	（算数・数学）	学部2年	後期	松岡　隆	自然系コース（数学）	選択	必修	必修	必修													小学校中・高学年の算数について数学的背景、学問的位置づけ、発展性を理解する。	中、高学年の児童の発達段階と学習指導要領の目標・内容の関わりを理解する。	中・高学年の算数について学習指導要領の目標・内容を理解する。	中・高学年の算数について教育目標を達成できる指導方法・授業構成を理解する。	中・高学年の算数について教育目標を達成できる単元計画を理解する。	中・高学年の算数について発達段階に沿った、指導・学習方法を理解し、指導計画作成・マイクロティーチングを通して実践的な指導力を身に付ける。				
	初等中等教科教育実践Ⅱ	（理科）	学部2年	後期	佐藤　勝幸	自然系コース（理科）	選択	必修	必修	必修													小学校中・高学年の理科について理科の背景、学問的位置づけ、発展性を理解し、説明できる。	中・高学年の児童の発達段階と学習指導要領の目標・内容の関わりを理解し、説明できる。	中・高学年の理科について学習指導要領の目標・内容を理解し、説明できる。	中・高学年の理科について学習目標を達成できる指導方法・授業構成を理解し、説明できる。	中・高学年の理科について学習目標を達成できる授業計画を理解し、立案できる。	中・高学年の理科について児童の発達段階を考慮した指導・学習方法を理解し、学習指導案作成、マイクロティーチングを通じて、実践的な指導力を身につける。				中・高学年の理科について児童の発達段階を考慮・推測し、授業計画や授業形態の検討及び改善ができる。
	初等中等教科教育実践Ⅲ	（国語）	学部3年	前期	幾田　伸司	言語系コース（国語）	選択	必修	必修	必修				よい授業を追求し、自分や他者の実施する授業を改善する方策を考えられる。											適切な教材分析を行い、目標を設定できる。	教育目標を達成するための授業方法を考えることができる。	適切な形式で学習指導案を作成することができる。	模擬授業実践を通して、実践的な指導力を習得する。				
	初等中等教科教育実践Ⅲ	（英語）	学部3年	前期	山森　直人	言語系コース（英語）	選択	必修	必修	必修				授業構想・展開・評価の過程を中心に自己を省察し、教師としての資質・力量を高める。			協働して授業を構想・展開・評価することができる。							授業実践力評価スタンダードにもとづき、授業を構想することができる。				授業実践力評価スタンダードにもとづき、授業観察や模擬授業を行うことができる。				授業実践力評価スタンダードにもとづき、授業に関する自己／共同省察を行うことができる。
	初等中等教科教育実践Ⅲ	（社会）	学部3年	前期	梅津　正美	社会系コース	選択	必修	必修	必修				初等中等公民学習について、自己の教育実践を反省・評価し、改善していくことができる。									社会制度やその構造の特質を理解し、小中学校の公民的領域に関わる知識目標として再構成し記述する	児童生徒との学習を展開するときの必要な構えやルールについて受講生同士で話し合い、記述する。	受講生3、4名のグループで、社会制度やその構造から主題をとった小・中学校の政治学習を構想し、学習指導案を書く。					〇①導入の工夫、②教材・教具の活用、③板書の構成、④形成的評価の実施という授業の4つの側面を総合的に踏まえた小中学校の政治学習について、各グループが細案を作成する。〇グループから実践者が立ち、マイクロティーチング（20分）を実施する。				合評会を組織し、実践された授業を検討・評価して改善点を具体的に指摘する
	初等中等教科教育実践Ⅲ	（算数・数学）	学部3年	前期	松岡　隆	自然系コース（数学）	選択	必修	必修	必修													中学校数学について数学的背景、学問的位置づけ、発展性を理解する。	中学生の発達段階と学習指導要領の目標・内容の関わりを理解する。	中学校数学について学習指導要領の目標・内容を理解する。	中学校数学について教育目標を達成できる指導方法・授業構成を理解する。	中学校数学について教育目標を達成できる単元計画を理解する。	中学校数学について学習者の発達段階及び算数との系統性等に即した指導・学習方法を理解し、指導計画作成・マイクロティーチングを通して実践的な指導力を身に付ける。				
	初等中等教育実践基礎演習	（家庭）	学部1年	前期	西川　和孝	生活・健康系コース（家庭）	―	必修	必修	―												人文・社会・自然諸科学全般に関する基礎的な研究方法論を理解する。	人文・社会・自然諸科学全般に関する基礎的な知識・方法を解釈し、レポートにまとめる。	授業者への意識の転換を図るためのプレゼンテーションの場を設定し、実施する。								
	教職論		学部1年	前期	阪根　健二	臨床心理士養成コース	必修	必修	必修	必修	教師として必要な使命感や情熱を理解し、教職への希望と期待を持つことができる。	教師の職務を理解し、その基盤となる倫理観の必要性を意識できる。	子ども理解を深め、教育愛に裏打ちされた教職について認識できる。			教師の職務や役割を理解し、指導における言動が与える影響とコミュニケーションの重要性を認識できる。	組織の一員として、協働して職務を遂行することが重要であることが理解できる。	学校が地域や保護者との良好な関係に上に成り立っていることが理解できる。													

開講科目のカリキュラムマップ（ダイジェスト版）

人間形成原論		学部1年	前期	木内　陽一	人間形成コース	必修	必修	必修	必修	人間形成における教育の必要性について、 18世紀以来の主要な教育理論家の 著作と理論に即して、理解できる。	啓蒙主義の倫理観を中心に、存在と当 為、善と悪がどのように考えられているか 理解できる。	18世紀の啓蒙主義、19世紀のロマン主義の概要を知り、現代の子ども観、人間観の背景を理解できる。	西欧近代の「批判」の意味が理解できる。 つまり「批判」とは、物事を分析し、省察することであることが理解できる。	「教養」とは、「知ることを楽しむこと」であることが理解できる。																	
初等国語科教育論		学部2年	前期	幾田　伸司	言語系コース（国語）	必修※	必修	必修※	必修※															小学校における国語科教育の目標・意義を理解し、説明できる。	小学校における国語科授業の内容と学習方法を理解し、説明できる。	先行実践を検討し、小学校における国語科授業の構成を理解し、説明できる。					
初等社会科教育論		学部1年	後期	伊藤　直之	社会系コース	必修※	必修	必修※	必修※															学習指導要領の内容構成を検討し、初等社会科の目標構造について理解する。	「優れた」小学校社会科授業の条件を学習論の観点から観察し、記述する。	「優れた」小学校社会科授業の単元としての特性を内容構成論の観点から分析し、記述する。					
算数科教育論		学部2年	後期	佐伯　昭彦	自然系コース（数学）	必修※	必修	必修※	必修※															算数教育の目標・意義、日本の算数教育の変遷、諸外国の状況を理解できる。	小学校算数の4つの指導領域の内容及び授業構成について理解できる。	小学校算数における授業設計の方法及び授業評価の方法を理解できる。					
初等英語科教育論		学部1・2・3年	後期	山森　直人	言語系コース（英語）	選択	必修	必修※	必修※													学習指導要領外国語活動の理念と小学校英語教育の現状を把握する。		小学校英語について第二言語習得論、身体論、関係論の観点から考察することができる。 国際理解をめざした外国語活動と授業づくりの基本を理解する。		『英語ノート』を活用した授業の実際について理解する。 活動重視の指導方法の基礎・基本を理解し、模擬授業を行うことができる。			
教育評価論		学部3・4年	前期	川上　綾子	授業実践カリキュラム開発コース	必修※	必修※	必修※	必修※													授業による子どもの変容をの確にみとるために、子どもの実態の把握が重要であることを理解し、その把握方法について知る。	子どもの学習を評価するにあたって授業の目標が明確化していることの重要性について理解する。		単元の目標・内容や子どもの実態に応じた学習評価計画をたてることの重要性とその方法について理解する。				子どもの学習活動や達成の程度をみとるための様々な方法を知り、学習評価において活用できるようになる。	「指導と評価の一体化」の重要性、その実現のための具体的な方法について理解する。
教育工学		学部3・4年	後期	川上　綾子	授業実践カリキュラム開発コース	必修※	必修※	必修※	必修※														授業や単元の目標を明確化することの重要性について理解し、子どもの実態や学習内容を踏まえた適切な目標を設定できる。	子どもの学習意欲を高め、授業目標や学習内容に応じた授業構成のあり方について理解する。			熟練教師にみられる効果的な教授活動について事例を踏まえて具体的に理解する。	子どもの意欲や相互作用を高める学習活動のあり方について理解し、適切な学習活動や学習環境を構成できる。	子どもの学習活動や達成の程度を的確にみとることの重要性とその方法について理解する。	
英語科教育論Ⅰ		学部2年	前期	山森　直人	言語系コース（英語）	―	必修	必修	―													近年の学校英語教育事情を理解する。 英語教育の基礎的知識、および英語教育について語るための専門用語を獲得する。 英語教育の専門用語を用い、学校英語教育の現状や課題について議論することができる。 受講生自身が英語教育観をもつ。								
英語科教育論Ⅱ		学部2年	後期	伊東　治己	言語系コース（英語）	必修	必修	必修	―											英語の授業で取り扱う言語材料について、構成要素（発音・語彙・文法・文化）別に英語教育の立場からそれぞれの特性を見直す。			英語の授業で取り扱う言語材料をその構成要素（発音・語彙・文法・文化）別に教授・学習の観点から見直すとともに、その効果的指導法を理解する。							
中等社会科教育論		学部1年	後期	梅津　正美	社会系コース	―	必修	必修	―														他者の実践した学習指導案を検討し、評価の「四観点」について理解する。	教科書を知識の構成という観点から分析し、図解して、その社会認識形成の論理を明確にする。	形態の異なる複数の学習指導案を分析し、教師の授業観と学習指導案の形態の類型表を作る。					

開講科目のカリキュラムマップ（ダイジェスト版）

教職共通科目	中等社会科授業論		学部2年	前期	井上　奈穂	社会系コース	－	必修	必修	－															「優れた」社会科授業の条件を、社会認識形成と市民性育成という観点から理解する。	他者が実践した授業の特質と課題を、「優れた」社会科授業の条件から分析し記述する。	「優れた」社会科授業の特性を理解し、授業観の違いを踏まえた学習指導案を各グループ、個人で作成する。					
	地理歴史科教育論		学部4年	前期	梅津　正美	社会系コース	－	選択	選択	－															学習指導要領の社会科・地歴科・公民科の目標構造を理解し、地歴科の位置と意義を明確にする。	地理・歴史授業構成の諸類型を、実践事例に即して説明する。	地理歴史科・公民科の履修計画を作成し、高校社会系教科学習の意義について討論する。					
	社会科・地理歴史科教材論		学部3年	後期	梅津　正美	社会系コース	－	選択	選択	－													地理学・歴史学の研究成果を踏まえた教科内容と様々な学習者の特性を踏まえ、適切な教材を選択する。		社会認識形成と市民性育成から「教材」の役割と特性を理解する。	教材をその要素ごとに分析し、それぞれの要素の役割と相互関連を分析し記述する。						
	公民科教育論		学部4年	前期	井上　奈穂	社会系コース	－	選択	選択	－															学習指導要領の社会科・地歴科・公民科の目標構造を理解し、公民科の位置と意義を明確にする。	公民科における「優れた」授業の特質と条件を実践事例に即して分析し記述する。	公民科における多様な授業観を踏まえた学習指導案を作成し、より良い公民科の授業の条件について討論する。					
	社会科・公民科教材論		学部3年	後期	井上　奈穂	社会系コース	－	選択	選択	－													政治学・経済学・社会学の研究成果を踏まえた教科内容と様々な学習者の特性を踏まえ、適切な教材を選択する。		社会認識形成と市民性育成から「教材」の役割と特性を理解する。	教材をその要素ごとに分析し、それぞれの要素の役割と相互関連を分析し記述する。						
	数学科教育論		学部2年	後期	齋藤　昇	自然系コース（数学）	必修	必修	必修	－															数学教育の目標・意義、日本の数学教育の変遷、諸外国の状況を理解できる。	中学校数学の4つの指導領域の内容及び授業構成について理解できる。	中学校数学における授業設計の方法及び授業評価の方法を理解できる。					
	数学科教材論		学部3年	前期	齋藤　昇	自然系コース（数学）	必修	必修	必修	－													数学科の教科書の単元の内容の数学的な背景・系統生について理解できる。	学習者の思考力・表現力を高める教材について理解できる。		目標達成に有効な教材を理解し、具体的題材について教材研究・教材開発ができる。	目標を達成のために教材を有効に活用する授業展開について理解できる。					
	数学科授業論		学部3年	前期	齋藤　昇	自然系コース（数学）	必修	選択	選択	－														授業内容が学習者の認知的側面・情意的側面に与える効果について理解できる。	数学科の教科書の単元の目標・題材について理解できる。	中学校数学の教科書の単元について、具体的な授業の構成方法を理解できる。	学習者の思考力・創造力を育成する授業の構築方法について理解できる。					
	数学科教育学特論		学部3年	前期	齋藤　昇	自然系コース（数学）	－	選択	選択	－															日本及び諸外国の数学教育の現状を理解し、教育課程と目標の関連を理解できる。	「数学的な活動」の主旨、内容、指導方法について理解できる。	「数学的な活動」を有効に実施するための教材開発・授業設計等ができる。					
	中等理科教育論Ⅰ		学部2年	後期	佐藤　勝幸	自然系コース（理科）	必修	必修	必修	－															中等理科教育の目標・意義、日本の中等理科教育の変遷、諸外国の状況を理解し、説明できる。	中学校理科の2つの領域の内容及び授業構成について理解し、説明できる。	中学校理科における授業計画の方法及び授業評価の方法を理解し、説明できる。					

開講科目のカリキュラムマップ（ダイジェスト版）

中等理科教育論Ⅱ		学部3年	前期	粟田　高明	自然系コース（理科）	必修	必修※	必修※	―													中学校・高等学校の教科書中に現れる実験教材と学習指導要領との関係を理解し、説明することができる。						中学校・高等学校の教科書中に現れる実験教材を参考にして、選択した単元内容の教材を作成し、他者に対して説明することができる。			
中等理科教育論Ⅲ		学部3年	後期	佐藤　勝幸	自然系コース（理科）	―	必修※	必修※	―													理科の教科書の単元内容について、科学的な知識とその系統性、実験・観察方法について理解し、説明できる。	子どもの実態を把握しながら、興味・関心を高め、思考力を高める教材について理解し、説明できる。		中学校2分野の学習目標達成に有効な教材を理解し、具体的な教材研究・開発ができる。	中学校2分野の学習目標達成のため、教材を有効活用できる授業展開を理解し、授業計画を行える。					
中等音楽科教育論		学部2年	後期	長島　真人	芸術系コース（音楽）	必修	必修	必修	―				音楽科教育に関する学術的な探究の発想と方法に関心を持つ。										音楽の学習の論理に基づいて、子どもたちの学習状況把握の方法を知る。	音楽の学習の論理に基づいて教材を検討し、学習指導過程の立案方法を理解する。	音楽の学習の論理に基づいて教材を検討し、学習目標の構造を理解する。	音楽の学習の論理に基づいて教材を構成し、音楽科の単元作りの方法を理解する。	学習目標をふまえた具体的な作業課題や学習活動を単元としてイメージすることができる。				学習目標をふまえた具体的な作業課題から評価基準を想定する方法を理解する	
中等家庭科教材論		学部3年	前期	金　貞均	生活・健康系コース（家庭）	―	選択	選択	―													家庭科の専門領域別、研究成果を踏まえて教科内容を理解し、実践的・体験的な教材を開発する。			家庭科の領域別実験・実習教材を探求・理解し、教育内容に応じた適切な教材を選択する。						開発教材を検証・評価し、授業計画や学習形態に応じて改善できる。
中等家庭科教育特論		学部4年	後期	前田　英雄	生活・健康系コース（家庭）	―	選択	選択	―													衣食住生活、家族や家族関係、家庭生活と消費の教科内容を理解し、実践的・体験的な教材を開発する。		家庭科の学習指導要領に準じた実験・実習教材を選択する。							開発教材を検証・評価し、授業計画や学習形態に応じて改善できる。
総合演習		学部3年	後期	小西　正雄	現代教育課題 総合コース	必修	必修	必修	必修		チーム別作業活動において共通の目的のために全力をつくすことができる				チーム別作業活動において、みずからの与えられた作業を、責任をもってはたすことができる。		学校外の豊かな教育資源の存在に気づきそれらから検挙に学ぶことができる。														
ふれあい実習		学部1年	前期	清水　茂	言語系コース（国語）	必修	必修	必修	必修	各学校の子どもとかかわり、教師の役割や教職について考えることができる。	子どもとのふれあいを通して、教師に求められる倫理観や規範意識について考えることができる。	子どもの安全や健康を考えることの大切さが分かり、子どもに安全にかかわろうとする。	自らの目指す教師像について考えるとともに、教育実習における自己課題に気づくことができる。		教育実習生として、子どもや教職員に適切な話し方や接し方ができる。	教育実習生の一員としての自覚を持って実習に参加し、協力し合うことの大切さがわかる。	保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことの大切さに気づく。	どの子にも分け隔てなく、親しみを持って接することができる。	進んで子どもとかかわり、適切に声をかけたり支援をしたりすることができる。	各学校の学級等の集団の状況や特性をとらえることができる。											
副免教育実習		学部4年	後期	清水　茂	言語系コース（国語）	―	選択	選択	―	使命感や熱意を持って実習に取り組み、教職への意欲を高めることができる。	教師として望ましい態度で子どもや教職員とかかわり、信頼される行動をとることができる。	環境や教具を整備し、子どもの安全・健康に配慮した適切な対応ができる。	常に自己の教育実践を振り、改善に努めることができる。		社会人として、教師として、常に時と場に応じた適切な言動をとることができる。	担任や教職員、実習生からの指導・助言を活かし、協調性を持って実習に取り組むことができる。	保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことの大切さを理解し、子育て支援の役割を担うことができる。	子どもに公平かつ受容的な態度でかかわり、心の交流を図ることができる。	子どもの言動から課題をとらえ、学級担任の助言を得て適切に対応することができる。	学級のルールや約束ごとに沿って、学習指導や生活指導等ができる。			個々の子どもの学習状況（興味や関心等）や、学習の理解度、課題等を的確に把握することができる。	学習指導要領の目標や内容、子どもの実態を踏まえて適切な目標設定ができる。	ねらいや学習内容、子どもの実態に合わせて教材や学習方法・指導形態等を工夫し、授業に取り入れることができる。	指導目標、内容、子どもの実態等を踏まえ、附属学校の形式に従って、指導計画、学習指導案を作成することができる。	子どもの反応や話す内容に応じて、話し方や表情、動作を使い分けることができる。	授業のねらいや子どもの状況を考慮し、発問や指示、助言、説明、板書等を工夫して学習を進めることができる。	子どもの予想外の反応にも対応しながら、学習意欲を喚起しつつねらいに沿って授業を進めることができる。	評価規準や評価方法に基づいて、ねらいの達成度や課題を把握することができる。	評価を活かしながら授業を進め、授業後の評価により次時の指導等を改善することができる。
保育所実習Ⅱ		学部4年	前期	橋川　喜美代	幼年発達支援コース	必修	―	―	―	保育所の役割や機能、保育士の職務を体験的かつ具体的に理解し、自らの資質を高める。	保育士としての職業倫理と乳幼児の最善の利益の具体化について学び、保育実習生として果たすべき行動ができる。	幼い乳幼児の健康や安全、受け入れ時の健康チェックの重要性と保護者への対応に留意した適切な行動ができる。	家庭や地域社会に対する子育て支援の実践から良好な人間関係の重要性について学ぶ。		職員間の役割分担とチームワークについて理解し、状況に応じた言動ができる。		保育所を利用している子どもと家族、地域の生活実態に触れてこれを理解し、子育て支援の役割を担うことができる。	子どもの観察や関わりを通して乳幼児の生活、遊び、発達等を理解し、豊かな人間的交流を持つことができる。	子どもの個人差を理解し、その対応方法を習得する。特に発達の遅れや生活環境に伴う子どものニーズを理解し、援助できる。	一人ひとりの遊びを配慮しながら、計画的にクラス全体での活動を取り入れ、集団での遊びの楽しさが経験できるようなクラス運営を行う。			保育環境、乳幼児の実態、子どもと保育者とのかかわりを観察して、観察記録を採り、指導計画に役立てることができる。	子どもと保育者のかかわりの記録に基づいて、かかわりの流れが立案できる。		担当する乳幼児の発達や実情を考慮しながら、遊びや生活を援助するための指導案を立案する。	乳幼児が受容されていると確信できるように、自らの表情や所作を考慮してかかわることができる。		生活や遊びの中で乳幼児が意見の違いに気づき、意見を調整し折り合いをつける場面や活動を促すことができる。		記録の整理を通して自己の実習内容を振り返り、実習の自己点検・自己評価を行い、次の課題を明確化することができる。
主免教育実習		学部3年	通年	清水　茂	言語系コース（国語）	必修	必修	必修	必修	子どもから学ぶ姿勢や熱意を持って実習に参加し、教師の使命を自覚することができる。	教師として望ましい態度を意識して子どもや教職員とかかわり、信頼される行動をとることができる。	環境や教具を整備し、子どもの安全・健康に配慮した適切に行動することができる。	教育実習を通して新たな自己課題を見出したり、目指す教師像を問い直したりすることができる。		時と場に応じた言動、子どもや教職員との接し方など、教育実習生としてのマナーを身につけ実践する。	担任や教職員、実習生からの指導・助言等を真摯に受け止め、協力し合って実習に取り組むことができる。	保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことの大切さを理解する。	子どもに公平かつ受容的な態度で接し、心の交流を図ろうとすることができる。	子どもの言動から思いや願い、健康状態等をとらえ、学級担任と連携しながら対応することができる。	学級のルールや約束ごとに基づき、学習指導や朝夕の会・給食などの指導ができる。			個々の子どもの学習状況（興味や関心等）や、学習の理解度等を把握することができる。	学習指導要領の目標や内容を理解し、子どもの実態を考慮して目標設定ができる。	ねらいや学習内容に合わせて、教材や学習方法・指導形態等を選択し、授業に取り入れることができる。	指導目標、内容、子どもの実態等を踏まえ、附属学校の形式に従って指導計画、学習指導案を作成することができる。	適切な声の大きさや速さ、言葉使い等により、学級全体に分かりやすく話や説明ができる。	授業のねらいに合わせて発問や指示、助言、説明、板書等を行い、学習を進めることができる。	学習意欲を喚起する場面や方法が分かり、子どもの学習状況に応じて対応することができる。	評価規準や評価方法に基づいて、子どもの学習状況を評価することができる。	授業中の評価をその場の指導に活かしたり、授業後に評価を行い次時の指導に活かしたりすることができる。

開講科目のカリキュラムマップ（ダイジェスト版）

主免教育実習事前事後指導	（幼児）		学部3年	通年	橋川　喜美代	幼年発達支援コース	必修	―	―	―	大学構内の多目的広場における附属幼稚園の子どもたちとの自然プロジェクトを通して、教育への確固たる使命感を持つことができる。	規範意識の芽生えを培う重要な幼児期の教員として、高い規範意識を持って自己の職務を果たすことができる。	幼児の安定した園生活と育ちとのかかわりを明確に認識し、適切に行動することができる。	自らの実習を振り返り、実習後の学習内容や課題を明確にし、絶えず自己の教育実践を反省・評価することができる。		教員間のやりとりを通して、目的や状況に応じた適切な言動を身につける。	組織の一員としての自覚を持って、他の教職員と協力して職務を遂行しようとする。			幼児一人ひとりの発達や心身の状況を的確にとらえ、適切な指導を心がけようと努める。	幼児との間に信頼関係を築き、仲間の努力を励まし合えるクラス運営を目指すことができた。			個々の幼児の育ちや関心・意欲を把握することができる。	指導案に掲げるねらいと内容、幼児の実態との関連性を理解し、指導案を立案することができる。			状況に応じた声の大きさや速さ、言葉使いなど、一人ひとりの幼児に配慮した指示や説明ができる。	幼児の状況に合った問いかけや指示、助言、説明などにより、遊びや活動が展開できる。	幼児の発言や表現行為を正確にとらえ、適切に対応しながら保育を展開することができる。	保育のねらいに沿って、保育の過程や成果を適宜に評価することができる。	幼児の反応や保育の成果を以降の指導計画に活かすことができる。
主免教育実習事前事後指導	（国語）		学部3年	通年	村井　万里子	言語系コース（国語）	―	必修	必修	―	主免実習の準備：これまでの学びを総括し、言語の教育の重要性を再確認する。	教育実習への期待感と、困難や予想外の事態に立ち向かう覚悟を固め、広い視野から国語科授業の課題を見渡す。				・実習の指導教員からいかに学ぶかについて確かめ、積極性と慎重さを併せもって実習に望むことを確認する。 ・実習中の様々な課題を解決するために、仲間同士で協力しあるいはどのようなとき大学の助けが役立つか考える。					・国語科の教科内容のうち、自らの経験が比較的少ないと思われる分野の教材研究法や授業構想のあり方について、補充的に考える。 ・得意な分野について、最終確認を行う。 ・受講者それぞれの研究成果を共有する。		学習者の実態をさまざまに想定しながら授業構想を行う。	学習指導要領を確認し、実習で想定される指導内容の全体での位置づけを確認する。	・実習先の条件を想定しながら、予想されう学習内容を組み立てるか、もしくは予想にとらわれない自由な発想にもとづく単元構成を考える。		・部分的な模擬授業を実施して、授業者としての自らの基本的・基礎的技能について、自信をもつべき点、課題として取り組むべき点などを確認する。			・本格的に可能となる「実際の子どものすがた」の評価」について、自らのねらいを準備する。
主免教育実習事前事後指導	（英語）		学部3年	通年	伊東　治己	言語系コース（英語）	―	必修	必修	―																英語の授業を構成している主要教授活動について理論的な背景を理解するとともに、模擬授業をとおしその実践方法を理解する。	教育実習で使用する教材を用いて、グループ単位で学習指導案を作成する。		①英語授業の基本原理を学習した上で、グループ単位でマイクロティーチングを行う。②その後、そのマイクロティーチングに関して、それぞれの活動についての基本原理に照らして良かった点や改善点についてグループ討議を行う。③グループ討議の結果をクラス全体で共有し、よりよい授業方法について理解を深める。④教育実習での授業実践について省察を行い、より効果的な授業方法について理解を深める。			
主免教育実習事前事後指導	（社会）		学部3年	通年	梅津　正美	社会系コース	必修	必修	必修	必修	主免教育実習を通して、授業者として望まれる使命感・倫理観・愛情を意識し、社会科教師としての自らの将来像を見据え、自己研鑽に努める。					自身や他者による社会科の授業構想や授業実践について議論を通して、より有意義な授業実践へ改善する目的を共有し、活発に意見を交換する。			主免教育実習の経験を糧にして、望まれる子どもとの接し方や指導のあり方を省察し、社会科授業実践における自分なりの「規準」を構築する。			社会科授業の構想過程や展開過程を経験することを通して、自らが必要とする専門諸科学の知見を帰納的に学び、授業実践へと還元する。			授業構想力評価スタンダード（社会科）を用いて、授業構想に関わる要点を把握し、附属小・中学校における実践を想定した社会科学習指導案を作成する。					授業展開力評価スタンダードを用いて、授業展開に関わる要点を把握し、社会科の授業実践を想定して、必要となる表現力や教育技術を向上させる。			授業実践力評価スタンダードや授業実践映像データベースを用いて、教育実習における自身や他者の授業実践を省察し、成果と課題を具体的に指摘する。
主免教育実習事前事後指導	（理科）		学部3年	通年	香西　武	自然系コース（理科）	―	必修	必修	―	教壇に立つ責任を自覚する。		安全に配慮し、実験・観察を行うことができる力を身につける。						授業ビデオの視聴を通して、児童・生徒とのより良いコミュニケーションについて理解する。	机間指導や個別指導場面の観察から、児童・生徒へのより良いアドバイスの方法について理解する。											ビデオ視聴を通して、学習者を意識した声の大きさ、抑揚、速さ、表情などについて理解する。	指導案の検討から、効果的な学習集団の編成、教材の活用、板書等について理解する。	ビデオの視聴から、児童・生徒の発言、つぶやきの取り上げ方について理解する。	評価の観点を明確にし、その評価に方法についての具体を知る。	
主免教育実習事前事後指導	（体育・保体）		学部3年	通年	吉本　佐雅子	生活・健康系コース（保健体育）	―	必修	必修	―	指導案は特に子どもの行動の特性を考えて作成する。実習後、実際に体験した子どもの関わりから具体的対応考察し、見本となるようなレポートを作成する。			学校現場での体験から、授業だけでなく日常的なかかわりが重要なことを知り、これらについて気がついたことをレポートにまとめる。			模擬授業、その指導案をグループで討議、協力して、作成する。		模擬授業を行い、子どもへの対応の仕方を練習し、学ぶ。	模擬授業、実習において個人指導の必要性を学び、事後指導時にどのようなケースが為り、どのような対応したかについて反省、考察する。	集団指導と個人指導の内容、バランスを把握する。	実習に備えて、指導案を作成するときに、授業内容に関して十分な知識を持つようにする。		子どもたちの反応の仕方を想定した指導案を作成。実際の授業で気がついたことを記録し、考察する。		模擬授業に向けた指導案を作成するときに、単元計画、授業構成を考えて、その授業の位置付けを確かにする。		模擬授業を行い、その後、学生同士でその授業に対して討議して、授業の展開力をつける。事後指導時に皆に参考になるような形式のレポートにまとめる。				模擬授業、実習の最終報告として、皆で討議し、これからの実習生が参考にできるマニュアルのような報告書を作成する。
主免教育実習事前事後指導	（算数・数学）		学部3年	通年	齋藤　昇	自然系コース（数学）	―	必修	必修	―														教科書の単元について、それまでの既習事項に基づき学習者の理解状況を考察できる。	教科書の単元について指導目標に基づく授業構築が理解できる。	教科書の単元について、指導教材、指導方法、指導形態、評価方法の選択ができる。	教科書の単元について学習指導案が作成できる。	模擬授業を通して基礎的・基本的な授業態度に関する改善点が把握できる。	模擬授業を通して教授活動の構成と展開に関する改善点が把握できる。	模擬授業を通して学習活動の喚起と促進に関する改善点が把握できる。	模擬授業を通して学習活動に対する評価に関する改善点が把握できる。	模擬授業から子どもの理解状況を推察し、その結果を授業計画の改善に活用できる。
教員インターンシップ			学部4年	前期	清水　茂	言語系コース（国語）	選択	選択	選択	選択	熱意を持って主体的・積極的に実習に取り組み、教師の使命を自覚することができる。	教師として望ましい態度で子どもや教職員とかかわり、信頼される行動をとることができる。	環境や教具を整備し、子どもの安全・健康に配慮した適切な対応ができる。	常に自己の教育実践を振り、改善に努めることができる。		時と場に応じた適切な言動、子どもや教職員との接し方など、社会人としてのマナーを身につけ実践する。	担任や教職員からの指導・助言を教育活動に活かし、協調性を持って実習に取り組むことができる。	保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことの大切さを理解し心がけようとする。	子どもに公平かつ受容的な態度でかかわり、心の交流を図ることができる。	子どもの言動から課題をとらえ、学級担任の助言を得て適切に対応することができる。	学級のルールや約束ごとに沿って、学習指導や生活指導等ができる。			個々の子どもの学習状況（興味や関心等）や、学習の理解度、課題等を的確に把握することができる。	学習指導要領の目標や内容、子どもの実態を踏まえて適切な目標設定ができる。	ねらいや学習内容、子どもの実態に合わせて教材や学習方法・指導形態等を工夫し、授業に取り入れることができる。	指導目標、内容、子どもの実態等を踏まえ、配属学校の形式に従って指導計画、学習指導案を作成することができる。	子どもの反応を見て、話し方や表情、動作を工夫することができる。	授業のねらいや子どもの状況を考慮し、発問や指示、助言、説明、板書等を工夫することができる。	子どもの反応に対応しながら、学習意欲を喚起しつつ授業を進めることができる。	評価規準や評価方法に基づいて、ねらいの達成度を把握することができる。	評価を活かしながら授業を進めたり、授業後の評価を次時の指導に活かしたりすることができる。
算数			学部2年	前期	佐伯　昭彦	自然系コース（数学）	必修※	必修※	必修※	必修※												集合、論理、関係、関数、数、図形、確率、統計等についての基礎的な概念を理解できる。	小学校算数の内容について、その背景にある数学の考え方・概念が理解できる。								
初等理科			学部1年	後期	本田　亮	自然系コース（理科）	必修※	必修※	必修※	必修※												小学校理科の学習内容について理解し、小学校学習指導要領理科を説明できる。	エネルギーと仕事、地震と安全、生物といのち、化学とくらしの関係について理解し、説明できる。								

開講科目のカリキュラムマップ（ダイジェスト版）

図画工作Ⅱ		学部2年	後期	野崎　窮	芸術系コース（美術）	必修	選択	選択	選択											立体表現と平面表現における実技に関わる基本的な知識と技能を身につけ理解する。	造形要素である色、形等について、作品制作を通して理解する。									
養護原理		学部2年	後期	吉田　耕平	幼年発達支援コース	必修	－	－	－							心理療法担当職員や家庭支援専門相談員などと協力し、児童の早期家庭復帰ができるよう支援する力を身につける。	障害を持つ児童や被虐待児への対応について学校をはじめ関係する専門機関との連携について理解する。	児童養護施設で生活している子どもの特徴や問題などについて理解し、実践に必要な力を身につける。	障害を持つ児童や被虐待児の抱える課題を理解し、個に応じた対応や指導ができる力を身につける。											
社会福祉論Ⅰ		学部1年	前期	吉田　耕平	幼年発達支援コース	必修	－	－	－	福祉専門職としての保育士の仕事や社会福祉援助技術の重要性を知り、明確な職業意識を持って乳幼児とかかわる。	社会福祉サービス実施体系や評価などを理解し、弱者の人権を守るという強い意志を持って、自己の職務を果たすことができる。	子どもの人権を守る立場から、幼い子へのかかわりを第一に考え、適切に行動できる力を身につける。	福祉分野から事象を分析し、自己の保育実践を絶えず反省・評価し、改善する姿勢を身につける。															
社会福祉論Ⅱ		学部1年	後期	吉田　耕平	幼年発達支援コース	必修	－	－	－							保育士の役割や援助について理解し、他の職員と協力して職務を遂行することができる。	多様化する保育ニーズを理解し、保護者や各種関係機関の職員との良好な人間関係の大切さを学ぶ。	乳幼児期の親子関係についての理解し、実際の養育環境や虐待といった現状について学ぶ。	乳幼児期における虐待の早期発見するカを身につける。											
児童福祉論		学部2年	前期	吉田　耕平	幼年発達支援コース	必修	－	－	－	児童養護施設など入所型施設に勤務する保育士として、明確な職業意識を持って児童とかかわる。	子ども一人ひとりの最善の利益を第一に考え、子どもの人権を守るという強い意志を持って、自己の職務を果たすことができる。	子どもの人権を守る立場から、18歳未満の児童とのかかわりにおいて、適切に行動できる力を身につける。	福祉分野から事象を分析し、自己の児童養護の実践を絶えず反省・評価し、改善する姿勢を身につける。															
小児保健		学部1年	後期	廣瀬　政雄	生活・健康系コース（保健体育）	必修	－	－	－			子どもの体、生理代謝機構および発育と発達のしくみについて理解し、成長に応じた指導をすることができる。								子どもの体、生理代謝機構および発育と発達のしくみについて理解する。	児童福祉施設での指導に必要な子どもの健康の背景と意義について理解する。									
小児地域保健		学部2年	後期	廣瀬　政雄	生活・健康系コース（保健体育）	必修	－	－	－			子どもの心身に及ぼす環境要因について理解し、子どもの心身の状況に応じた指導をすることができる。								子どもの心身の発達と健康に対する環境要因の影響について理解する。	児童福祉施設での指導に必要な環境要因と子どもの心身反応のしくみについて理解する。									
国語学Ⅰ		学部1年	後期	茂木　俊伸	言語系コース（国語）	－	選択	選択	－				講義内容に対する質問用紙の作成を通して、日常の言葉に疑問を持つ習慣をつける。							口語文法に関する基本的知識を習得し、高校までの自らの知識を再構成、発展させる。	様々な文法事象の分析を通して、文法事象を教科内容として捉え直すことができる。									
国語学Ⅱ		学部2年	前期	原　卓志	言語系コース（国語）	－	選択	選択	－				言葉の歴史に興味を持ち、それを調べ、授業に活用できる。							文語文法について理解し、これまでの知識を再構成、発展させることができる。	授業の目的に沿って、文語文法・語彙に関する知識を再構成することができる。			文法・語彙の体系的指導と機能的指導を構想し、授業計画を作成することができる。		模擬授業を通して、基礎的・基本的な授業態度を身に付ける。	目標に沿った「より良い授業」構築のために、学習活動が工夫できる。			模擬授業後の質疑や自己評価を通し、改善すべき問題点が修正できる。
国語学特論Ⅰ		学部2年	後期	原　卓志	言語系コース（国語）	－	選択	必修	－				言葉に対して素朴な疑問を持ち、それを自ら解決する方法、授業に活用する方法を考える。							現代語・古典語の両面から、日本語の文法・語彙・表現の特徴を分析し、発表する。	国語科を「言葉の教科」として再認識し、言葉を言葉で説明することの困難さと意義を体験する。					自らの考察結果について、聞き手に配慮しながら適切な説明を行う。			他者の発表に意見を持ち、必要に応じて代案を示す、質疑応答を踏まえ、自らの代案を記録する。

開講科目のカリキュラムマップ（ダイジェスト版）

国語学特論Ⅱ		学部4年	前期	茂木　俊伸	言語系コース（国語）	―	選択	必修	―				言葉に対して疑問を持ち、それを自ら解決し、授業に活用する方法を考えることができる。								現代日本語の諸現象を捉え、それを分析・説明する技能を習得する。	言語現象の分析過程や結果を検討しあい、授業に活かす方法を考えることができる。									
語学・文学総合演習Ⅰ（国語学）		学部3年	前期	原　卓志	言語系コース（国語）	―	選択	必修	―				言葉に対して素朴な疑問を持ち、それを自ら解決する方法、授業に活用する方法を考えることができる。					模擬授業を実施する中で、発言者の意図を尊重して発言をとらえ、発言をふまえて返すことができる。			国語学の知見を活かし、いわゆる言語事項の教材分析を行うことができる。	模擬授業を立案し、専門知識を授業に活かす具体的な方法を考えることができる。		言語事項を扱う模擬授業を構想し、当該学習内容の授業の進め方に対する見通しを持つことができる。			適切な音声や表情で模擬授業を行うことができる。	言語事項を扱う模擬授業を実施し、適切に授業を進めることができる。	発問を考えることを通して、言語事項に対する学習者の思考を促す方法を考えることができる。		模擬授業の反省や気づきを記録し、振り返ることによって、授業の課題を見つけることができる。
国文学概論（国文学史を含む。）		学部3年	後期	野口　哲也	言語系コース（国語）	―	必修	必修	―												国文学研究の基礎的な方法論を習得し、時代ごとの表現様式の特質と意義を理解することができる。	日本文学史における重要事項についての基本的知識を習得し、それを発表することができる。	言語事項に関する学習者の習熟度に対応して、適切な文学教材を選定して扱うことができる。		文学研究の基礎的方法を理解し、教材研究に反映させることができる。						日本語の形成過程においてなされた様々な試行錯誤のありさまを具体的に知り、伝えることができる。
国文学Ⅰ		学部1年	後期	野口　哲也	言語系コース（国語）	―	選択	選択	―				自明と思われがちな事象に対し、自覚的・批判的な観察眼をもって接することができる。								リアリズムを主流とする文学史に対し、、幻想文学の系譜を記述することができる。	日常的に用いている言葉が本来持っている多様な可能性に触れ、それを記述することができる。	親しみやすいテクストに即して、文学作品を愉しく読むことができる。					言語と映像の交錯するメディアについてのリテラシーを深め、教育実践に活かすことができる。			多様な読みを活かす授業のあり方を考え、実践することができる。
英語基礎研究		学部1年	後期	藪下　克彦	言語系コース（英語）	―	必修	必修	―												大学からの英語学習さらには研究に必要な知識・スキルとはどのようなものか理解する。	上記で述べた知識・スキルのレベルを常に向上させるための方法を身につけ、実践することができる									
英語音声学		学部2年	後期	眞野　美穂	言語系コース（英語）	―	選択	選択	―												英語の音声・音韻についての基礎を学び、その仕組みを理解する。	英語の音声・音韻を他言語とも比較しながら、その特徴を探り、分析する方法を学ぶ。									
英語学研究Ⅱ		学部3年	後期	眞野　美穂	言語系コース（英語）	―	選択	選択	―												言語とコミュニケーションについて応用言語学、社会言語学の分野における知見を深め、英語の特徴を様々な側面から理解する。	英語を、言語使用、言語教育、言語変種などの観点からを観察し、多角的な視点から分析を行う能力を身につける。									
英語学研究Ⅲ		学部4年	前期	藪下　克彦	言語系コース（英語）	―	選択	選択	―												英語学でリサーチ、論文の執筆、プレゼンテーションをする際の方法論を実践を通して身につける。	研究を行いその成果を効果的に人に伝えることは、教材研究を行い授業をすることと同じであることを理解する。									
英文講読		学部1年	前期	杉浦　裕子	言語系コース（英語）	―	必修	必修	―												さまざまな英文に触れ、文章の構成・文体の違い・ニュアンス・文章の背景を分析する力を身につける。	さまざまなタイプの英文の精読を通して正確な英文読解力を身に付け、内容についての意見を述べる。									
英文学史		学部2年	後期	杉浦　裕子	言語系コース（英語）	―	選択	必修	―												時代の流れの中で、作家や作品の特徴を捉える方法を身につける。	イギリス文学の主要作品を、文化・社会背景とともに通観し、原書の一部を読んで作品にふれる。									

開講科目のカリキュラムマップ（ダイジェスト版）

米文学史		学部3年	前期	前田　一平	言語系コース（英語）	―	選択	必修	―												主要な作家および作品の解説、時代の潮流としての文化・思想について学ぶ。	原書の講読による読解力の向上、英語教員として必要なアメリカ文化の基礎理解を得る。									
英米文学研究Ⅰ		学部2・3年	後期	杉浦　裕子	言語系コース（英語）	―	選択	選択	―												イギリスの近現代の演劇の特徴と背景を理解する。	戯曲の講読と台詞の練習を通して、生きた英語のニュアンスを理解する。						劇を英語教育に導入する可能性について考える きっかけとする。			
英米文学研究Ⅱ		学部3・4年	後期	前田　一平	言語系コース（英語）	―	選択	選択	―												アメリカ文学の原書講読および作品解釈によって、アメリカ文学を理解し、読解力を養成する。	物語解釈の基本学習と他者の解釈との議論を行い、そのための表現力養成を実践する。									
比較文化研究Ⅱ		学部2年	前期	前田　一平	言語系コース（英語）	―	選択	選択	―												アメリカ文化と社会の基本的事項を学習し、日本との比較の中で異文化理解を実践する。	アメリカを多元文化のモデルとすることによって、異文化に接する姿勢について学ぶ。									
日本史学概論		学部1年	前期	大石　雅章	社会系コース	―	必修	必修	―				テキストや書物を読解する力、文化財を活用する力をのばし、自らの探求心を高める。								基本的な歴史的変遷を理解し、事象の分析を通じて歴史学的な探究方法を学ぶ。	歴史学の流れ、ものの見方、事象の分析について、論理的に説明し文章に表現する。									
日本史学特論Ⅰ（古代・中世）		学部2年	前期	大石　雅章	社会系コース	―	選択	選択	―				テキストや書物を読解する力、文化財を活用する力をのばし、自らの探求心を高める。								荘園制の形成を事例に、古代と中世の政治・社会・文化構造の相違を探究し学ぶ。	古代・中世の政治・社会・文化構造の違いを解釈し、論理的に説明し文章に表現する。									
日本史学特論Ⅱ（近世・近代）		学部2年	前期	町田　哲	社会系コース	―	選択	選択	―				テキストを読み込みむことで、文章読解力を向上させ、そこでの疑問・関心を自らの探求心に結びつける。								特定の時代の特徴を、政治・経済・文化等から複合的に捉え、社会に生きる人びとの視点から理解する。	日本近世を事例に、教科書の記述を、研究上の新しい成果をふまえながら構造的に考察し、その解説を文章にまとめる。									
外国史概論		学部1年	前期	原田　昌博	社会系コース	―	必修	必修	―												特定の時代・場所を多様な視点から分析して、歴史を構造的・複合的に捉える方法を理解する。	ナチズムを事例に、教科書の記述を、政治史・社会史の両面から構造的に考察し文章にまとめる。									
地理学実習		学部3年	後期	木原　克司	社会系コース	―	選択	選択	―												地理学的な調査・分析・資料呈示に必要な室内外の諸技術の初歩を習得する。	地理学に関わるデータを処理し、図表の形で呈示する。									
地理学野外実習		学部3年	通年	木原　克司	社会系コース	―	選択	選択	―												野外における地理学的な調査の仕方の初歩を習得する。	野外において地理学に関わる観察・計測・記録を行う。									

開講科目のカリキュラムマップ（ダイジェスト版）

地誌学概論		学部1年	後期	立岡　裕士	社会系コース	－	必修	必修	－												地誌学的思考の基礎である、環境・地域の概念、および空間的差異の捉え方を理解する。	環境決定論・地域実在論的な陳述の誤りを正しく指摘する。									
地誌学特論		学部2年	後期	立岡　裕士	社会系コース	－	選択	選択	－												一つの場所の特徴を理解・説明するために多様な資料を利用する方法を知る。	新旧の地形図その他の多様な資料を利用して、一つの場所の特徴を説明する。									
法律学概論（国際法を含む。）		学部2年	後期	麻生　多聞	社会系コース	－	必修	必修	－												法制度の目的・機能を把握し、一定の結論を導き出す論理構成能力を修得する。	憲法学・刑事法学の重要事項をめぐり適切な論旨の展開を会得し、これを表現する。									
法律学特論		学部3年	前期	麻生　多聞	社会系コース	－	選択	選択	－												法学における現代的な問題状況を検討し、市民社会における法の機能につき理解する。	紛争解決規範としての法の意義を、具体的紛争状況への適用という形で明らかにする。									
法律学演習		学部3年	後期	麻生　多聞	社会系コース	－	選択	選択	－												実社会での法運用把握に資する文献を購読し、法教育を担う教員としての資質を涵養する。	文献内容要約・問題提起からなる報告を通じ、主体的な討議の端緒を開くことができる。									
社会学概論		学部2年	前期	山本　準	社会系コース	－	必修※	必修※	－												社会学の基礎理論を学び、社会分析の視点を確立する。	理論と現実社会との関係を理解するための基礎的能力を身につけることができる。									
代数学Ⅰ		学部1年	後期	平野　康之	自然系コース（数学）	－	必修	必修	－												ベクトル，行列，行列式の取り扱いと幾何学への応用について理解する。	線形代数の幾何への応用を通して，代数的取り扱いの重要性や意義を理解する。									
代数学Ⅱ		学部2年	前期	平野　康之	自然系コース（数学）	－	選択	必修	－												ベクトル空間の概念と連立1次方程式について理解する。	ベクトル空間と線形写像を通して，連立1次方程式を理論的に理解する。									
代数学Ⅲ		学部3年	前期	平野　康之	自然系コース（数学）	－	選択	選択	－												初等整数論を題材にして，群論，環論などの考え方について理解する。	群論，環論などの代数学の考え方が役立つことを理解する。									
代数学特論		学部3・4年	後期	平野　康之	自然系コース（数学）	－	選択	選択	－												代数方程式や作図の問題を題材にして，体論，群論などの考え方について理解する。	体論，群論などの代数学の考え方が役立つことを理解する。									

開講科目のカリキュラムマップ（ダイジェスト版）

専修専門科目	幾何学Ⅰ		学部1年	前期	松岡　隆	自然系コース（数学）	－	必修	必修	－											円錐曲線論と多面体の数学について理解し，空間図形の世界の豊かさ・面白さを説明できる。	学校で扱う空間図形の性質をより深く知るための見方・考え方を理解し指導に活かすことができる。								
	幾何学Ⅱ		学部2年	後期	松岡　隆	自然系コース（数学）	－	選択	必修	－											古典的なユークリッド幾何と，射影で形を見る射影幾何を理解し本質的な面を説明できる。	学校の平面幾何の特性，構造，面白さを理解し説明できる。身近な問題に応用できる。								
	幾何学Ⅲ		学部3年	前期	松岡　隆	自然系コース（数学）	－	選択	選択	－											連続の概念で形を見るトポロジーについて理解し，本質的な要素を説明できる。	図形の世界を新たな初等的発想で理解することにより，その豊かさを説明できる。								
	幾何学特論		学部3・4年	前期	松岡　隆	自然系コース（数学）	－	選択	選択	－											微分で形を見る微分幾何と相似を元とするフラクタル幾何を理解し，考え方を説明できる。	微分と相似が身の周りに見られる形の探究に役立つことを理解し，学校数学の意義を説明できる。								
	解析学Ⅰ		学部1年	後期	成川　公昭	自然系コース（数学）	－	必修	必修	－											関数概念，微分積分の概念を理解し，身近に現れる寮や関係を分析するための技術を身につける．	学校，社会で現れる数量やその関係を簡単な計算を通して理解する態度や技術を身につける．								
	解析学Ⅱ		学部2年	前期	成川　公昭	自然系コース（数学）	－	選択	必修	－											多変数関数の微分・積分を通し，面積，体積等の概念や，極値問題について理解する．	学校数学に現れた数量概念の厳密な定義を理解し，更に広い対象に対してその概念を適用できる．								
	解析学Ⅲ		学部3年	後期	成川　公昭	自然系コース（数学）	－	選択	選択	－											実数の概念を更に拡張した複素数，その上の関数の性質について理解する．	高校までに習った複素数の性質を確認すると共に，その上で微積分を行うことにより，実数上だけでは得られなかった新たな世界が展開されることを体験する．								
	物理学の基礎		学部1年	前期	松川　徳雄	自然系コース（理科）	－	選択	自由	－											物理学で用いられる数学の基礎を理解し，簡単な実験の測定値から規則性などの変化を説明できる。	ニュートンの運動の法則，万有引力の法則を理解し，身近な例を説明できる。								
	中等理科（物理学分野）		学部1年	後期	粟田　高明	自然系コース（理科）	－	必修	必修	－											中学校・高等学校で学習した物理分野の原理・法則を理解し，身近な具体例を説明できる。	運動，力とエネルギーの関係，電気と磁気の関係を理解し，国際単位系を軸に説明できる。								
	物理学Ⅰ		学部2年	前期	粟田　高明	自然系コース（理科）	－	選択※	必修	－											質点，剛体など理想的な物体の概念を理解し，運動の法則を多面的に説明できる。	力と運動，エネルギーの関係を理解し，単純な物体の運動についてのニュートンの運動方程式を説明できる。								

開講科目のカリキュラムマップ（ダイジェスト版）

物理学Ⅱ		学部3年	後期	松川　徳雄	自然系コース（理科）	－	選択※	必修	－												電磁気における場の概念を理解し、電位や電磁誘導を説明することができる。	クーロンの法則、アンペールの法則、ファラデーの電磁誘導の法則を理解し、それらを用いて身近な電磁気現象を説明できる。									
物理学Ⅲ		学部4年	前期	本田　亮	自然系コース（理科）	－	選択	選択	－												熱現象の基本概念を理解し、温度と熱、エントロピー、エンタルピーを説明できる。	気体分子論、熱力学の法則を理解し、簡単な熱機関のサイクルを説明することができる。									
物理学実験Ⅰ		学部2年	後期	粟田　高明	自然系コース（理科）	必修	必修	必修	－												科学における理論と実験の関係、実験における不確かさを理解し、実験値の処理に適用することができる。	物理における実験の重要性、基礎的な実験手法の習得し、得られた実験値を統計的に分析することができる。									
物理学実験Ⅱ		学部2年	後期	粟田　高明	自然系コース（理科）	必修	選択※	必修	－												科学における理論と実験の関係、実験における不確かさを理解し、実験値の処理に適用することができる。	物理における実験の重要性、より進んだ実験手法の習得し、得られた実験値を統計的に分析することができる。									
歌唱法Ⅰ		学部2･3年	後期	草下　實	芸術系コース（音楽）	－	選択	選択	－			歌唱表現する喜びを通して、子どもの健全な情操とコミュニケーション力を育成する。									歌唱作品の音楽構造や様式観を理解するとともに、自然で無理のない歌唱技法で歌唱表現をできるようにする。	歌唱教材を解釈し、正しい声の響きや息の支え方等を理解し、演奏できるようにする。									
歌唱法Ⅱ		学部3･4年	前期	草下　實	芸術系コース（音楽）	－	選択	選択	－			歌唱表現する喜びを通して、子どもの日常生活における発語等、表現力を育成する。									歌唱作詞品の音楽構造や様式観を理解することで、自然な演奏表現をできるようにする。	歌唱教材の内容を理解し、正しい声の響き、息の支えや歌唱技法を修得し、演奏できるようにする。									
ピアノ基礎Ⅰ		学部1年	後期	森　正	芸術系コース（音楽）	－	選択	選択	－				ピアノ音楽のもつ様々な魅力を味わい、自らの表現力を高める方法を探求する。								ピアノを演奏する際の基本的な動作を確認し、合理的な奏法を習得する。	ピアノ伴奏を行う際に必要とされるスケール、アルペジオ、スタッカート等の技術を習得する。									
ピアノ基礎Ⅱ		学部2年	前期	森　正	芸術系コース（音楽）	－	選択	選択	－				ピアノ音楽における多声音楽の重要性を理解し、そのための技術を習得する。								ピアノの基本的な演奏技術を習得する。	ピアノ伴奏を行う際に必要とされるペダルの使用や、適切なタッチの使用等の技術を習得する。									
絵画Ⅰ		学部1年	前期	鈴木　久人	芸術系コース（美術）	－	必修	必修	－												絵画制作を通してその基礎的技能と知識を獲得し、観察力および構成力を身につけることができる。	基礎的技能、観察力および構成力を身につけ、学校で扱う絵画表現の多様性を理解することができる。									
絵画Ⅱ		学部2年	後期	鈴木　久人	芸術系コース（美術）	－	選択	選択	－												絵画の構図、マチエールのよる効果、色彩効果などを理解し、秩序やリズムを表現する能力を養うことができる。	自己の表現能力を獲得し、生徒児童の表現の重要性を理解することができる。									

開講科目のカリキュラムマップ（ダイジェスト版）

絵画材料研究		学部3年	後期	鈴木　久人	芸術系コース（美術）	－	選択	選択	－												絵画材料を研究し、描画材に対する知識とその応用力を養うことができる。	描画材に対する知識と応用力を身に付け、学校で扱う絵画材料の特性を理解出来る。									
絵画特別演習Ⅱ		学部3・4年	前期	武市　勝	芸術系コース（美術）	－	選択	選択	－												作品制作を通して、学校現場での版画指導の内容を理解すると同時に、自身の構想表現力を養う	小学高学年から中学を想定した版画教育内容。銅版画と孔版画に関する知識と技能を養成。									
素描		学部1年	通年	鈴木　久人	芸術系コース（美術）	－	選択	選択	－												デッサンにおける描画材を理解し、観察力、素描における構成力を養うことができる。	素描用具の理解、観察力および構成力を身につけ、学校で扱う明暗表現の重要性を理解することができる。									
構成・デザイン特別演習		学部3年	後期	内藤　隆	芸術系コース（美術）	必修	選択	選択	－												小型家具のデザイン・制作を通し、素材と加工機具の特性を理解、段取り力・工夫力を求め、安全管理能力を育成する。										
美術理論・美術史Ⅰ		学部2年	後期	小川　勝	芸術系コース（美術）	－	必修	必修	－												過去に制作された美術作品の、時代背景や作者の意図などを探求する方法である。										
美術理論・美術史Ⅱ		学部3年	後期	小川　勝	芸術系コース（美術）	－	選択	選択	－												美術を理論的に考察するために、一つの地域時代の美術作品群を多方面から理解するようにする。										
美術史演習		学部3年	前期	小川　勝	芸術系コース（美術）	－	選択	選択	－												過去に作られた美術作品を自己の言葉遣いにより、さらに詳しく理解することを目指す。										
運動学Ⅱ		学部2年	後期	乾　信之	生活・健康系コース（保健体育）	－	選択	選択	－										運動の習得レベルと関連づけて教育方法を理解する。		運動の制御と学習の背景にある解剖学、生理学の関係を理解する。	運動学習を通して、情報を選択して運動を計画することを理解する。	運動学習を通して運動を記憶すること理解し、学習者の記憶レベルを把握する。								運動の記憶レベルの評価方法を理解し、その結果の知識の伝達方法を学ぶ。
運動制御論		学部4年	前期	乾　信之	生活・健康系コース（保健体育）	－	選択	選択	－												運動の制御と学習の背景にある解剖学、生理学、心理学、運動学の関係を理解する。	運動のタイミングと力の習得過程を理解し、わざ言語の用い方を理解する。	運動学習は認知的段階、連合段階、自動的段階に分かれ、学習者がどの段階で何を学習しているかを把握する。								運動のタイミングと力の習得過程の評価方法を理解し、その結果の知識の伝達方法を学ぶ。
生理学Ⅰ		学部1年	後期	田中　弘之	生活・健康系コース（保健体育）	－	必修	必修	－			安全で効率的な運動処方の策定法に関する理解を深める。							スポーツ諸科学に立脚した被トレーニング性について理解を深める。		解剖学、生化学、生物学、物理学等の基礎的理論について理解を深める。	運動の種類、強度、頻度、時間、期間等の策定法について理解を深める。									体力、運動能力の異動とその評価法について理解を深める。

開講科目のカリキュラムマップ（ダイジェスト版）

生理学Ⅱ		学部1年	後期	田中　弘之	生活・健康系コース（保健体育）	－	選択	選択				安全で効率的な運動処方の策定法に関する理解を深める。							スポーツ諸科学に立脚した被トレーニング性について理解を深める。		解剖学、生化学、生物学、物理学等の基礎的理論について理解を深める。	運動の種類、強度、頻度、時間、期間等の策定法について理解を深める。									体力、運動能力の異動とその評価法について理解を深める。
衛生学・公衆衛生学Ⅰ		学部3年	後期	廣瀬　政雄	生活・健康系コース（保健体育）	－	必修	必修	－			子どもの安全と健康に影響する要因について理解し、学校での指導に役立てることができる。									子どもの安全と健康に影響する要因について理解する。	子供の指導に必要な安全と健康に対する知識があり、これらを確保するための方法を理解している。									
衛生学・公衆衛生学Ⅱ		学部3年	後期	廣瀬　政雄	生活・健康系コース（保健体育）	－	選択	選択				子どもの安全と健康に影響する要因について理解し、家庭、学校および社会での指導に役立てることができる。									家庭、学校および社会において子どもの安全と健康に影響する要因について理解する。	家庭、学校および社会において子供の指導に必要な安全と健康に対する知識があり、これらを確保するための方法を理解している。									
学校保健Ⅰ		学部2年	後期	吉本　佐雅子	生活・健康系コース（保健体育）	－	必修	必修	－			子どもの健康に関する特性を理解する。	子どもの健康に関わる要因について理解し、さらに探求するための方法を学習する								学校保健の運営について、健康対策としての理論的位置付け、方法を学ぶ			学校保健の運営について、健康対策としての理論的位置付け、方法を学ぶ							
学校保健Ⅱ		学部2年	後期	吉本　佐雅子	生活・健康系コース（保健体育）	－	選択	選択	－			子どもの健康に関する特性を理解する。	子どもの健康に関わる要因について理解し、さらに探求するための方法を学習する								子どもの健康にかかわる科学的知識を学ぶ										
保健体育科教育情報処理論		学部3年	後期	綿引　勝美	生活・健康系コース（保健体育）	－	選択	選択	－							デジタル教材の作成をとおして、強調性をみにつける					体育科教育という事象を言語的に記述するときの、言語の構造について、テキストマイニング法をつかって分析する基本を習得する。									統計的手法をもちいた、身体運動に多面的な測定評価の必要性と、その具体的な活用について、その基礎を習得する。	
機械加工学		学部4年	後期	宮下　晃一	生活・健康系コース（技・工・情）	－	選択	選択	－												工作機械を用いた加工実習を通して、金属加工や精度の高いものづくりに関する理解を進める。										
機械基礎（実習を含む。）		学部1年	後期	宮下　晃一	生活・健康系コース（技・工・情）	－	必修	必修	－												ものづくりに関する基礎知識として、機械の構造や動力伝達機構、運動の変換、動力源、機械要素等の理解を進める。	エネルギー変換を行う機械の仕組みについて理解を進める。									
エネルギー変換工学		学部2年	前期	畑中　伸夫	生活・健康系コース（技・工・情）	－	選択	必修	－												熱エネルギーを中心に、エネルギー保存の法則および不可逆過程について理解する.	新学習指導要領では、中学校技術・家庭科（技術部門）の4本柱の一つであり、エネルギーが相互に変換されることを理解する.									
設計製図		学部1年	後期	畑中　伸夫	生活・健康系コース（技・工・情）	－	選択	選択	－												ものづくりにおける基本的な知識・技能として、構想した形状を規則に従って正しく表現する方法を理解できる.	中学校技術・家庭科（技術部門）の製図を教授するのに不可欠な、製図法について理解する.									

開講科目のカリキュラムマップ（ダイジェスト版）

	数値流体力学		学部3年	後期	畑中　伸夫	生活・健康系コース（技・工・情）	－	選択	選択	－												流体力学や水力学における流体の基本的性質と力学的挙動について理解することができる.	流体の流れによって、エネルギーの形状が変化し、エネルギーの伝達が行われていることを理解する.									
	電気基礎（実習を含む。）		学部2年	後期	宮本　賢治	生活・健康系コース（技・工・情）	－	必修	必修	－												現代の日常生活に必要不可欠な電気についての基本的な知識や技術を習得する。	電気工学の基礎となる電気回路や電磁気現象について基本的な知識と技術を習得する。									
	電気工学		学部3年	前期	宮本　賢治	生活・健康系コース（技・工・情）	－	選択	選択	－												現代の日常生活に必要不可欠な電気についての基本的な知識や技術を習得する。	電気・電子工学の土台である交流理論を学び、電気のエネルギー利用技術の概要を理解する。									
	栄養学（小児栄養学を含む。）		学部3年	後期	西川　和孝	生活・健康系コース（家庭）	－	選択	選択	－												栄養学全般に関する基礎的知識を理解する。	栄養学全般に関する基礎的知識から適切な教材を選択する。		学習指導要領の目標と構造を理解する。							
	食品学		学部2年	前期	前田　英雄	生活・健康系コース（家庭）	－	選択	選択	－												食品学全般に関する基礎的知識を理解し、実生活に反映させる。	食品学全般に関する基礎的知識から実践的な教材を選択する。		学習指導要領の目標と構造を理解する。							
	食物学実験		学部3年	後期	西川　和孝	生活・健康系コース（家庭）	－	選択	選択	－			安全性に留意して食物学実験を行う。他の班員と協力して実験する。	関連する他教科に対しても広く関心を持つ。								食物学全般に関する基礎的知識を理解し、実験する。得られた結果を実験レポートにまとめる。	食物学全般に関する基礎的知識から適切な教材を選択する。		学習指導要領の目標と構造を理解する。							
	住居学概論（製図を含む。）		学部1年	後期	金　貞均	生活・健康系コース（家庭）	－	必修	必修	－												生活諸科学における住居学の学問的位置づけを理解する。	時間軸・空間軸から人間生活の基盤である住居を各分野から概観し、理解する。			住空間における理論と実際の生活場面における実践の検証・評価を中心とした授業を構想する。				調べ学習や課題発表、討議形式の学習活動を展開することができる。		
	住居設計・製図		学部2年	後期	金　貞均	生活・健康系コース（家庭）	－	選択	選択	－													空間論と設計論から住空間の構成原理と設計手法を理解し、空間表現の基礎的技術を習得する。			住まいの総合的理解を基に住空間を具体的にイメージできる構想力を培う。				学習者の課題遂行能力に応じた課題の調整や評価課題のグレードづけなどを工夫した学習が展開できる。		
	肢体不自由者の心理・生理・病理	特別支援教育	学部3年	後期	津田　芳見	特別支援教育専攻	－	－	－	必修												発達期の神経、運動器障害のうち、頻度の高い者を中心に知識を得る。	臨床像、病因、病態、心理認知特性、予後、鑑別法、対応法などについてグループ学習する。	肢体不自由者の心理認知的特性、病理・生理について理解し、対象児の特性を把握する。								
	病弱者の心理・生理・病理		学部1年	前期	津田　芳見	特別支援教育専攻	－	－	－	必修												医療の進歩、社会的変化により、対象児の抱える問題が大きく変化していることを理解する。	小児期の成長発達をふまえ、病弱・虚弱児教育の対象となる疾患による健康障害を理解する。	対象児への心理社会的影響、生理・病理的特性について理解する。								